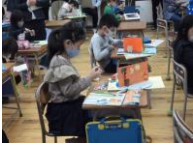


相ノ木っ子だより

令和2年度
学校だより
12月号
上市町立相ノ木小学校



「時の流れだ」

一人一人の見方・感じ方



県東部小学校教育課程研究集会図画工作科部会の研究指定を受け、2年間、ものや人との関わりを大切にしながら、子供たちの造形的な見方・考え方の育成に努めてきました。先月、その集大成となる研究集会を開き、3年生が割ピンを使って紙を回す仕組みから思い付いたものを表す「くるくるチェンジ」、5年生は2020年の折々に感じる心を抽象画に表す「こころ百景-2020-」の公開授業を行いました。

3年生は、自分の思い描いた場面に合う色画用紙をたくさんの中から選んだり、はさみやパンチを使って切り取る形を工夫したりしながら作っていました。それぞれが黙々と活動する様子から、自分がイメージする色や形をしっかりと、思いを表現しようとする熱意が伝わってきました。また5年生は、百景目にあたる心の抽象画を鑑賞する授業でした。前述の言葉は、女の子の抽象画についてみんなで鑑賞し、話し合う中で、ある男の子が発したものです。女の子の抽象画は、コロナ禍においての自分の気持ちをグラデーションで表現したもので、色の変化の様子から感じ取った心の変化や時間の流れ等を発表し合っていました。どちらの学年も、一人一人の色や形への見方や感じ方に広まりや深まりが見られ、さらにその思いをみんながしっかりと認め合っていることが伺えました。これは、他の教科でも、他の学年でも、同様のことが今の相ノ木っ子には見られます。図画工作科の研究授業を通して、深い学びへと向かう子供たちの成長、支援する先生方の指導力向上があり、指定を受けてたいへんよかったと感じています。今後も、一人一人の思いを大事にした「互いを見つめ、本音で語る授業」をずっと続けていきたいと考えます。

精神科医の熊代亨さんは、著書「健康的で清潔で、道徳的な秩序ある社会の不自由さについて」で、次のようなことを述べています。

- ・健康が望ましいのは当たり前だが、誰もが健康に気をつける社会になるほど、それが義務になり、不健康な行動は不道德なものとみなされる恐れがある。
- ・かつての「お互い様」から「人に迷惑をかけない」というロジックを基にした秩序に変わってきた。清潔でない人、行儀よくない人は不審の目で見られる。
- ・ハイレベルな社会になったため、ハードルが高くなっている。レベルについていけない人は、生きづらくなってしまった。
- ・多様性をより尊重するようになった社会のはずだが、均一性という言葉の方が似合っている。多様な個人の生き方が逆に許されなくなっている。

熊代さんは、昔の時代に帰れと主張しているわけではなく、今の時代の自由と不自由、生きやすさと生きづらさを自覚し、向き合ってほしいと言っています。わたしも同感です。不道德な行為があると、一斉にその人自体を非難・攻撃する今の日本に、息苦しさを感じることがあります。これだけ個人の尊重、自由度の高さを得ている社会なのに、どこか他人の目を気にして、個としての自分を生き生きと輝かせることができないような気がしています。

冒頭で述べたように、学校では、子供たち一人一人の思いを紡ぎながら授業を組み立て、一人一人の見方・感じ方を伸ばすために授業を工夫しています。そして、配慮を欠いた言動や秩序を乱した行為があっても、話し合い等によって自分でそれを改善していくようにしています。確かに、健康的、道徳的であることは大事ですが、そうでない面がその人にあっても、他のよいところを認めつつ少しずつ変容していけばよいのです。いろんな人、いろいろな個性があるのですから、真の「みんな違ってみんないい」社会を構築していくことが大切ではないでしょうか。



心の充実あってこそその健康



「校長先生、肩貸して」

ピロティで一輪車に挑戦している女の子が、声をかけてきました。ピロティの柱や壁、足洗い場を利用しながら、何とか乗れるように、少しでも前へ進めるように夢中になって取り組んでいる子がたくさんいます。いきいきタイムに、さわやかランニングで時間いっぱいがんばって走った後なのですが、子供たちはまだまだ元気いっぱいです。ピロティで一輪車や竹馬、グラウンドでは鉄棒やサッカー、雲梯、鬼ごっこ等、体を使って遊んでいる子供たちの姿が見られます。もうずいぶん肌寒くなり、体を動かすことも億劫になりがちですが、さわやかランニングやその後の遊びのように、いろいろな運動や遊びに興味・関心をもって、自分の体をどんどん鍛えてほしいと思います。

先日のミニ駅伝大会では、トラック一周を懸命に走りながら(班の人数の調整上、中には2回走る子も)、なかよし班の全員がたすきをつないでいました。例年、このミニ駅伝大会は、春からいきいきタイムで取り組んできた走力・体力の集大成として、また班全員の絆を深めることを目的として行っています。しかし今年度は、新型コロナウイルス感染予防のために、さわやかランニングを始めたのは10月の終わり頃で、もちろんなかよし班の団結という目的は変わりありませんが、冬季の体力づくりの意欲付けというねらいが大きかったです。子供たち一人一人のがんばりから、これからが大事な勝負所となるなわとびやけん玉といった学校独自の運動にもきっと意欲的に挑戦してってくれるものと期待しています。

さて、1か月ちょっとのさわやかランニングやミニ駅伝大会での子供たちの様子を見ていて、やはり体力づくりには自身の心の充実が欠かせないということを痛感します。友達と楽しそうにスタートラインにつく姿、目標をもって黙々と走る姿、同じ団の友達の走りに声援を送る姿…。わたしたち大人も実感するところですが、心の健康無くして、身体は健康はありません。心の充実、心の張りこそが真の健康とも言えます。そして、心の充実とは、周囲の人との関わりが大きく寄与しています。友達との協力や競い合いを通して、また先生や家族の賞賛や励ましを通じて、子供たちの心はものすごく満ち足りたものになります。

指揮者の小澤征爾さんは、指揮者を目指す若者に次の言葉を贈っています。

何より、柔軟で鋭敏で、しかもエネルギッシュな体をつくっておくことだ。

心身共にしなやかで、さわやかで、すこやかな体をつくるのが、豊かな人生、幸福な人生を送ることができる第一の条件であると言えるでしょう。

これからクリスマスや正月といった楽しい行事が待っているのに、全国的な新型コロナ第3波は衰えを見せず、寒さ厳しく積雪の多い冬を迎えそうです。そして、インフルエンザ流行への懸念、自殺者増加、経済への打撃、外出・外食の自粛等、心理的にも負担感、不安感が増しそうです。そんな時こそ、学校、家族、地域みんなで互いを思い合い、声を掛け合い、心の充実、精神的な安定を図り、体力・免疫力を衰えさせることなく元気な自分でいたいものです。そして、限られた中でも冬の思い出づくりをし、さらに心の充実を図ることができるとなおいいですね。

相ノ木っ子のみんな、心地よい、健康な冬を過ごしましょうね。

「We wish you a merry Christmas and a happy new year」



行事予定 (12月中旬～1月中旬)

12月23日(水) 地区児童会 下校 14:20

24日(木) 第2学期終業式 下校 13:15

25日(金) 冬季休業開始(～1/7(木))



1月1日(金) 元日

8日(金) 第3学期始業式 校内書初大会

11日(月) 成人の日

12日(火) 身体計測・視力検査(低)

13日(水) 身体計測・視力検査(高)

14日(木) 身体計測・視力検査(中)

